

『第58回 全国公立教頭会研究大会 徳島大会参加報告』

7月27日～29日 アスティとくしまを主会場に『豊かな人間性と創造性を育む学校教育』を大会主題として全国公立教頭会研究大会が行われた。

1日目は開会行事とシンポジウム，2日目は10の分科会に分かれての研究会，3日目は記念講演と閉会行事という日程であった。

2日目に参加した第4分科会では、「組織・運営に関する課題」について，沖縄県からは教職員の授業力向上における教頭の役割について，愛媛県からは学校の組織力を高めるための教頭の役割について，徳島県からは教職員の育成及び学校組織の活性化を図るための副校長・教頭の関わりについての3本の提言がされ，それらを受けて35のグループごとに協議及び意見交換が行われた。

沖縄県西原町・北中城村・中城村教頭会の提言は，県全体の課題でもある学力向上に向けて教師の授業力を向上させるための校内研修への教頭の積極的な関わりについての研究であった。小学校において校内研で学年を超えた教科部会を設置し授業研究を行っている例，教師が自らの授業を振り返る授業リフレクションの定着化など興味深い内容であった。討議は『教職員の資質向上に向けて校内研修をより充実させるために教頭はどのような役割（関わり）を担うべきか。』を柱に行い，校内研究の計画段階での関わり，助言，外部との繋がりをつけることなどの教頭の役割について意見交換がされた。

愛媛県上浮穴郡教頭会からは，小規模校が多い地域で学校間の共同実践・共同研究や情報交換を進め，さらに地域人材や組織を活用するため教頭がどのように取り組んでいったかについての実践発表が行われた。協議では，『学校内の組織の再編成及び家庭・地域や学校間の連携，協働体制の確立をどのように図っていくか。』を柱に各県各地区での現状について話し合いがなされた。ここでは地域により大きく異なる現状があらためて浮き彫りとなった。コミュニティスクールが定着し，大きな効果を挙げているところ，学校外の組織がうまく機能していないところなど地域の現状は様々である。その地域の中で何をどのように取り入れながら連携，協働体制を確立していくかしっかりと見極めた上で取り組んでいく必要があると感じた。

徳島県徳島市名東郡副校長・教頭会からは教職員の育成評価システムの活用を通じた教職員の育成及び学校組織の活性化を図るための副校長・教頭の関わりについて提言がなされた。徳島県においても本県と同様に昨年度新しい教員評価制度の試行，本年度教職員の育成評価システムの全面実施となっている。各教職員の目標については前年度に取り組みについての成果の確認・反省を確実にを行い，次年度への課題として新しい目標に生かしていくシステムで，個々の教職員の資質向上に向けて繋がりのあるものになっていた。個人の目標について開示（職員同士で確認し合えるよう掲示）したり，教頭が職員の様子を記録する授業観察シートを付けて指導・助言に生かしたりするなどの取り組みがなされていた。グループ協議は『各県で行われている教員評価を通して，教員の資質向上をいかに図っていくか。』を柱として行われた。面談を夏季休業中に設定しているところ，校長・教頭の評価への関わり方の違い等の例が出され，評価書・自己観察書（各都道府県によって名称も違う）の形式もそれぞれ異なるものであった。各県の情報交換も含めて活発な討議がなされた非常に有意義な分科会となった。

今回提案のあった教職員の育成及び学校組織の活性化・家庭・地域や学校間の連携，協働体制の確立はいずれも大切な取組であり，学校の組織・運営に関するコーディネーターとしての教頭の役割の重要性を改めて感じた。

（日下部小 小川 正仁）